

# 令和8年度 福住小学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：25017

## 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

実態	「学ぶ力」	
	成果	課題
	<p>◇共通指標のアンケートで「自分が思っていることや感じていることを人に伝えている。」「意見の違う人とも、よく話し合おうとしている。」の質問に対し、肯定的な回答は8割を超えている。</p> <p>◇「振り返りを通して、自分の伸びや成長を感じることがある。」「振り返ったことを、次に生かそうとしている。」という質問に対し、肯定的な回答が8割を超え、AARサイクルの授業展開が効果的な成果として表れているのではないかと。</p>	<p>◇共通指標のアンケートで「自分の意見を進んで発言しようとしている。」という質問に対し、肯定的な回答の割合は8割を下回っている。</p> <p>◇学級や学年の活動に参加しているが、自分の考えを述べたり、学級等での話し合いをしたりして、互いの意見のよさを生かすことが課題である。全国学力・学習状況調査の質問調査の結果でも、「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」児童の割合は全国や北海道の平均に比べて7ポイント以上下回っている。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p> <p>◇共通指標アンケートで、「自分が必要とされていると感じる」肯定的な回答率は、高学年ほど自己有用感が得られにくい傾向にある。一方で「人の役に立ちたい」という意欲は全学年9割超と極めて高く、貢献意欲はあるものの、周囲からの承認を実感する「相互承認」の取組が十分に機能していないことが推察される。</p> <p>◇高学年における自己有用感の向上が急務であり、ICTの活用や自治的な活動を通して、個々の考えが他者に認められる「可視化された相互承認」の場を意図的に設定する必要がある。行事や日常の協働的な学びにおいて、互いのよさを具体的にフィードバックし合う振り返りの場を充実させることで、自己有用感の高まりを確かなものにしていきたい。</p>		

### 「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

他者とつながり、学び合う ～子どもたちが自ら課題の発見と解決に、主体的・協働的に学ぶ～

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>(1)「主体的・対話的で深い学び」の視点から、AARサイクルを意識した学習展開を取り入れ、<u>イントロダクションの工夫に着目した授業改善</u>に取り組む。</p> <p>(2)「個別最適な学び」と「協働的な学び」に関する日常の実践交流を行う研修を設定し、学びの全体共有を図る。</p> <p>(3)特別支援・低学年・中学年・高学年の4つのまとまりで授業づくりを行い、ブロックで一つ「話題提供授業」をもち、全員で学び合う場を設定する。</p>	<p>①各活動についての計画を進めるにあたり、児童会活動・クラブ活動・なかよし活動（異学年交流）がそれぞれのねらいに迫ることができるように、教職員全体で連携して進める。<u>なかよし活動では、異学年交流を活性化させるために、小グループをより活用した取組を進める。</u>また、<u>クラブ・委員会では意図的な異学年グループを編成する。</u></p> <p>②学級の枠を超えた児童が集まるので、教職員全体で役割分担を行う。それぞれが児童に適切な指導ができるよう、事前の計画・運営ならびに事後の振り返りを丁寧に行い、よりよい活動をつくる。全校朝会、放送、掲示板などで効果的な発信を行う。</p>
	<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主に(1)の取組について、AIを活用し、感想などの集約やたたき台や資料の作成、要約など授業支援に役立てられるようにする。</li> <li>・主に(2)の取組として、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、まなびポケット内にあるミライシード（オクリンクプラス）を活用し、児童一人一人の考えや意見が繋がられる授業づくりを推進する。</li> </ul>	

<本プログラムの実行に向けて>

